



ネクロボリス・アリス
朽techS -2016-

MATURE CONTENT

「おそらくこれが、私の本来の姿なのだろう。

なんの矛盾もなく、なんの違和感もない。エッジは明確で、私が私であることに揺るぎがない。

人はそれぞれに、その欲望に相応しい肉体が存在するのだ。

私はそれが真実なのだと確信している」

ネクロファロス
——牧野修『屍の懐剣』



When we're dead, they'll know just who we are.

∴無垢掃いのランタン

∴火星の皆勤者

∴瘴気の忘却主

∴アルデバランの巫女

∴環月の死せざる荊

∴春知らずの骨鍵

∴クラリモンドの吐息奪い

∴神聖なアストロド

∴百色獣

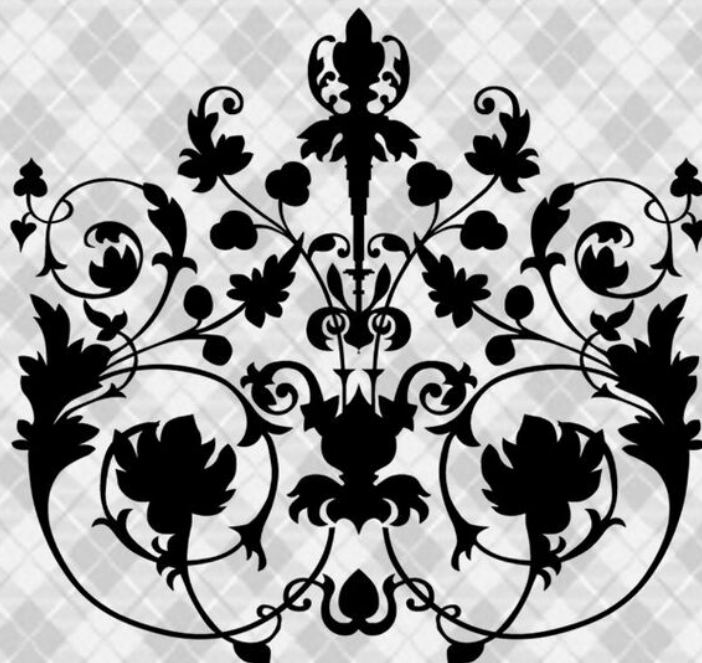
∴凶星の七姉妹

∴女王陛下の川蟬

∴真円のスズメバチ

∴大鰐通りの黒後家蜘蛛

∴聖像破壊者の錘



ふたりだけの地獄なら、
天国と何が違うのかしら？
あの娘が呟いたことさ。
今なら答えられるのにね、
お互いだけを楔にする生は
赤子の熱のような地獄だと。
ともかく、俺があなを
“出荷”することになったわけで、
答える機会はないのさ。
あれが二度目の仕事だったんだ。
——アガラットの死出虫、
“気障な” フォルン・ベス



▼ 火星の勤行者 / Routiner Of Mars ▼

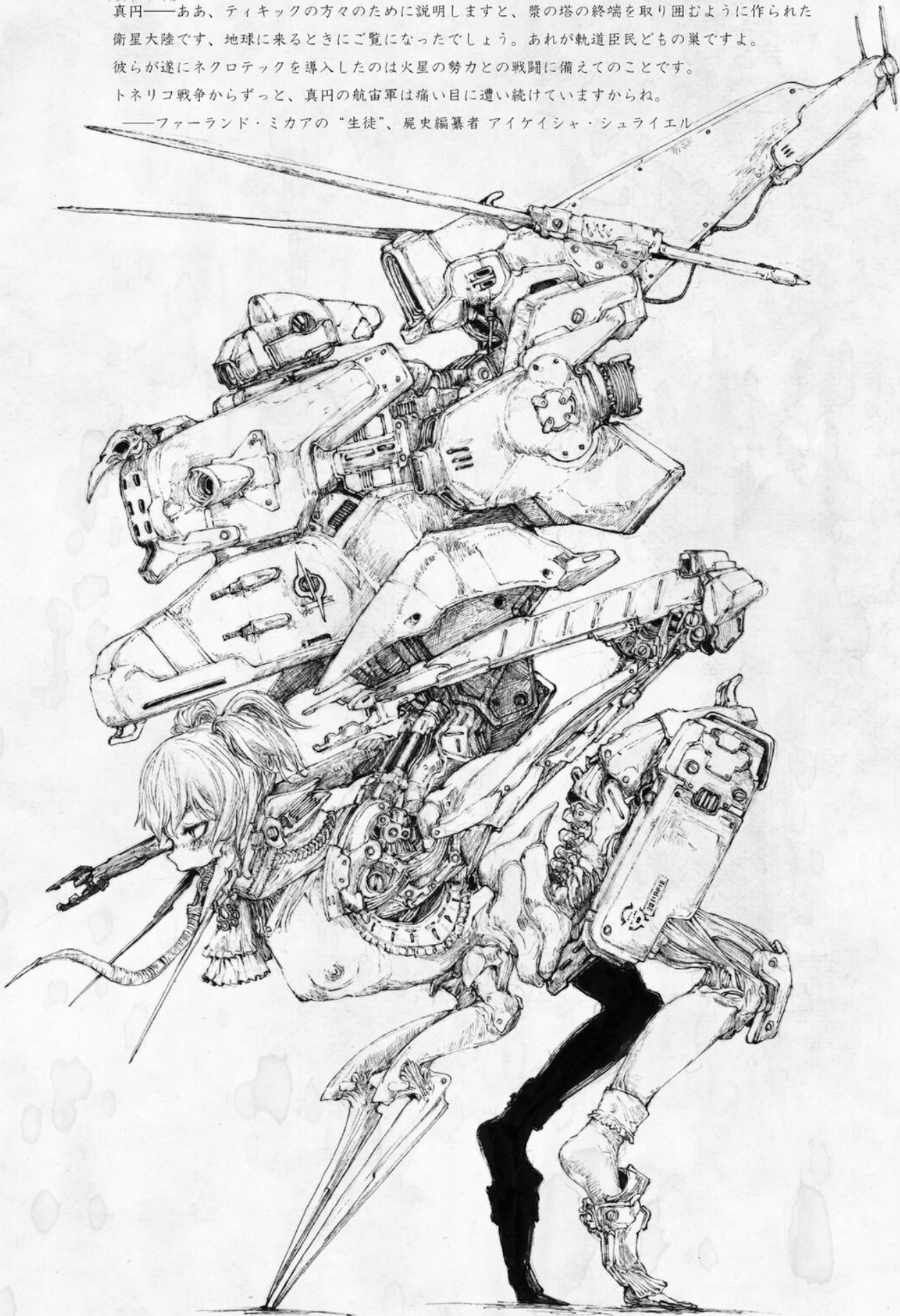
パーフェクト・サークル

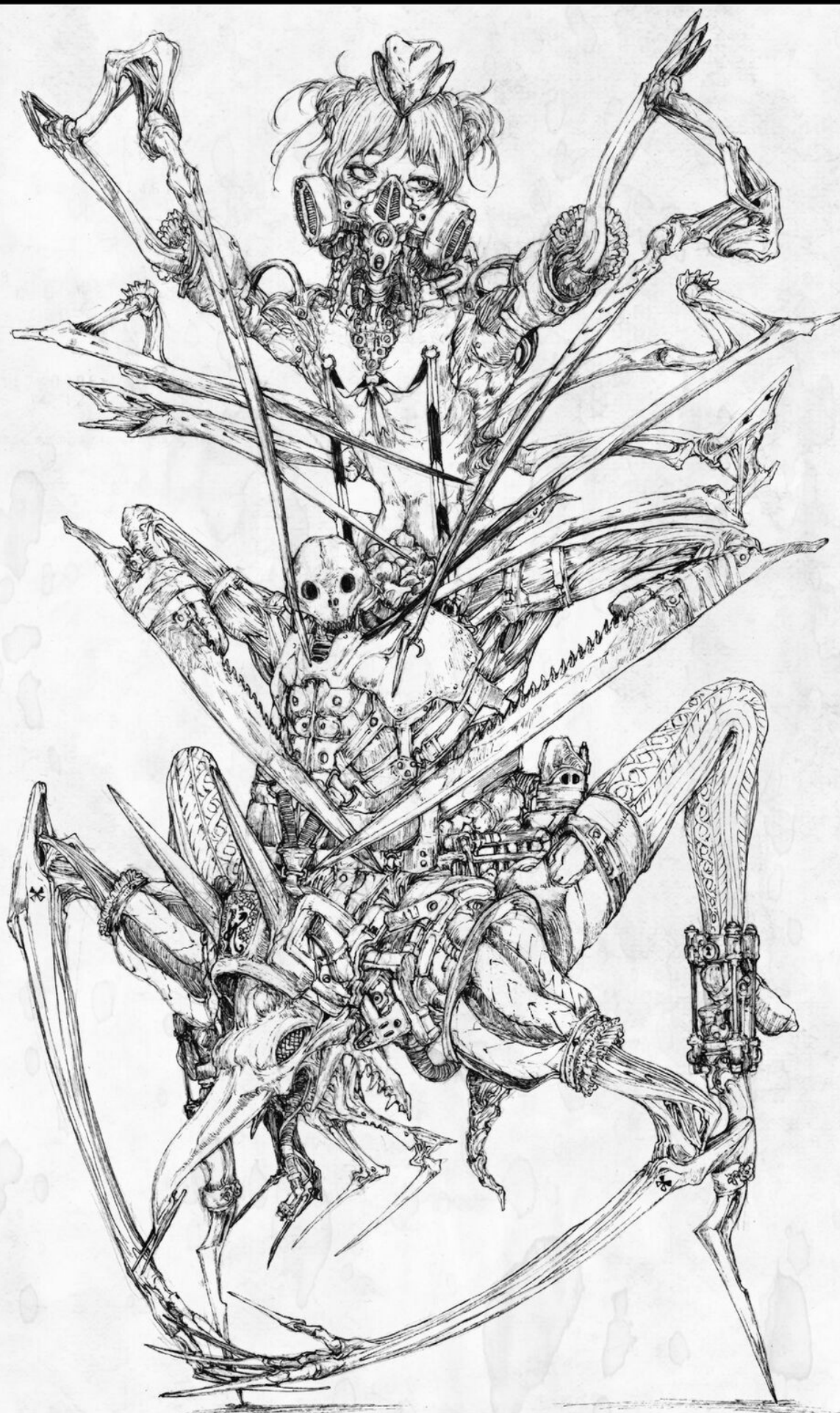
真円——ああ、ティキックの方々のために説明しますと、檠の塔の終端を取り囲むように作られた衛星大陸です、地球に来るときにご覧になったでしょう。あれが軌道臣民どもの巣ですよ。

彼らが遂にネクロテックを導入したのは火星の勢力との戦闘に備えてのことです。

トネリコ戦争からずっと、真円の航空軍は痛い目に遭い続けていますからね。

——ファーランド・ミカアの“生徒”、屍史編纂者 アイケイシャ・シュライエル





▼ アルデバランの巫女 / Medium Of Aldebaran ▼

結局、私が最後に仕えた“鴉瑠璃の”シュノーデン5世が
アルファルドの血筋最後のマルグの魔女でもあったわけ。
“マルギア大肉樹”の修復も放棄されて、クヴェレは
自ら野獣の魔術を手放し、戦力はウォーキマイラで
賄うようになった——それも国産じゃない。

私達の時代も過ぎ去ったのよ。

——クヴェレの離反者、^{スウォードデモン}剣の鬼、

“六閃”キラコ・ジャクスジク



アンライフ・ウィー

死霊戦争最大の醜聞はやはり

“ケレンホイールの虐殺”だろう。

骸骨告解師の一団と、補給のために

立ち寄ったブレイグフラワーズが

一触即発になった。もはやどっちが

先に撃ったのかは闇の中さ。

とにかく、半屍者どうしの凄惨な

戦いの末、奴ら自身の中からは

本当に“死んだ”奴さえ出ず、

無関係の人間ばかり犠牲になった。

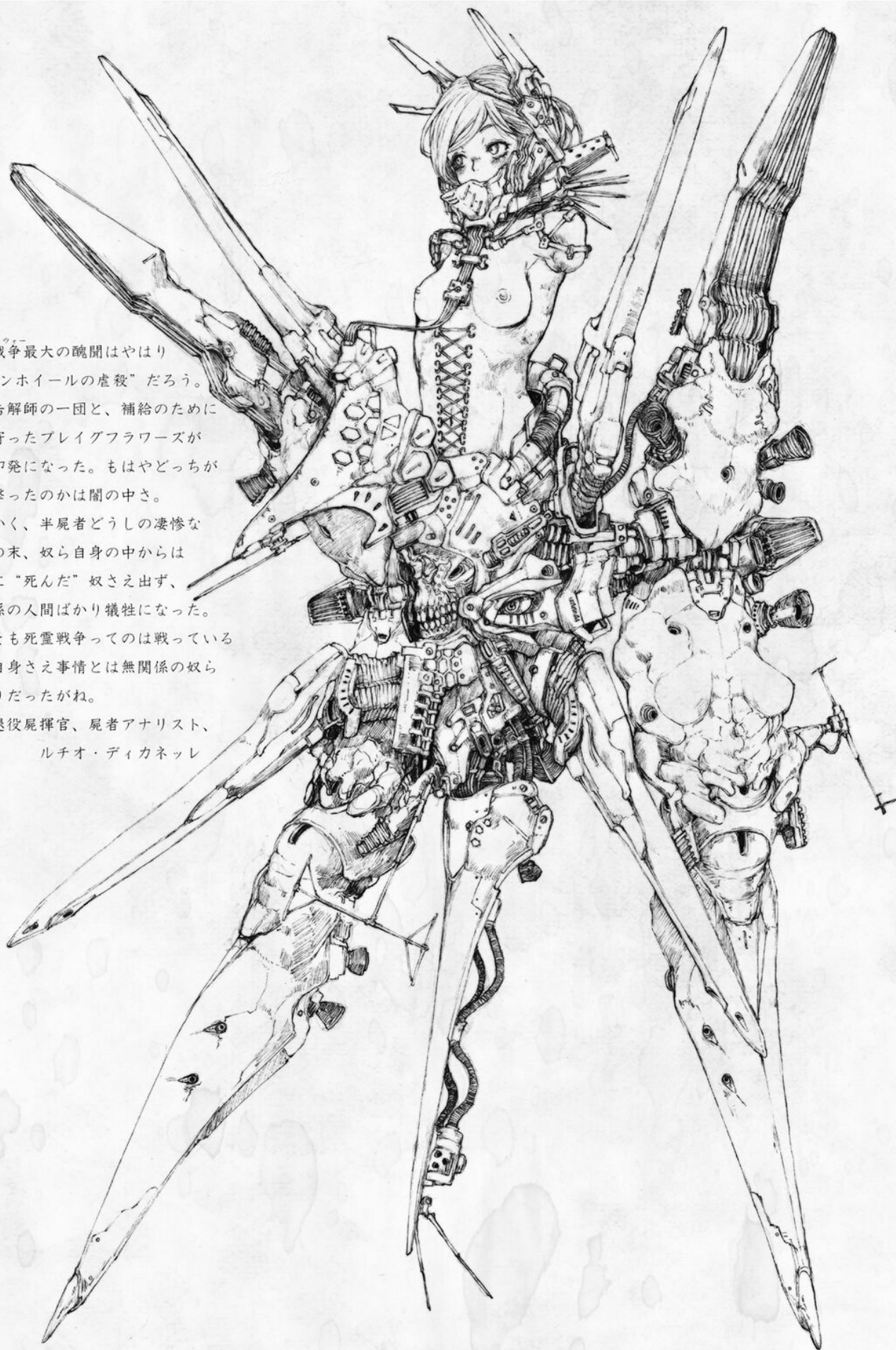
そもそも死霊戦争ってのは戦っている

連中自身さえ事情とは無関係の奴ら

ばかりだったがね。

——退役屍揮官、屍者アナリスト、

ルチオ・ディカネッレ



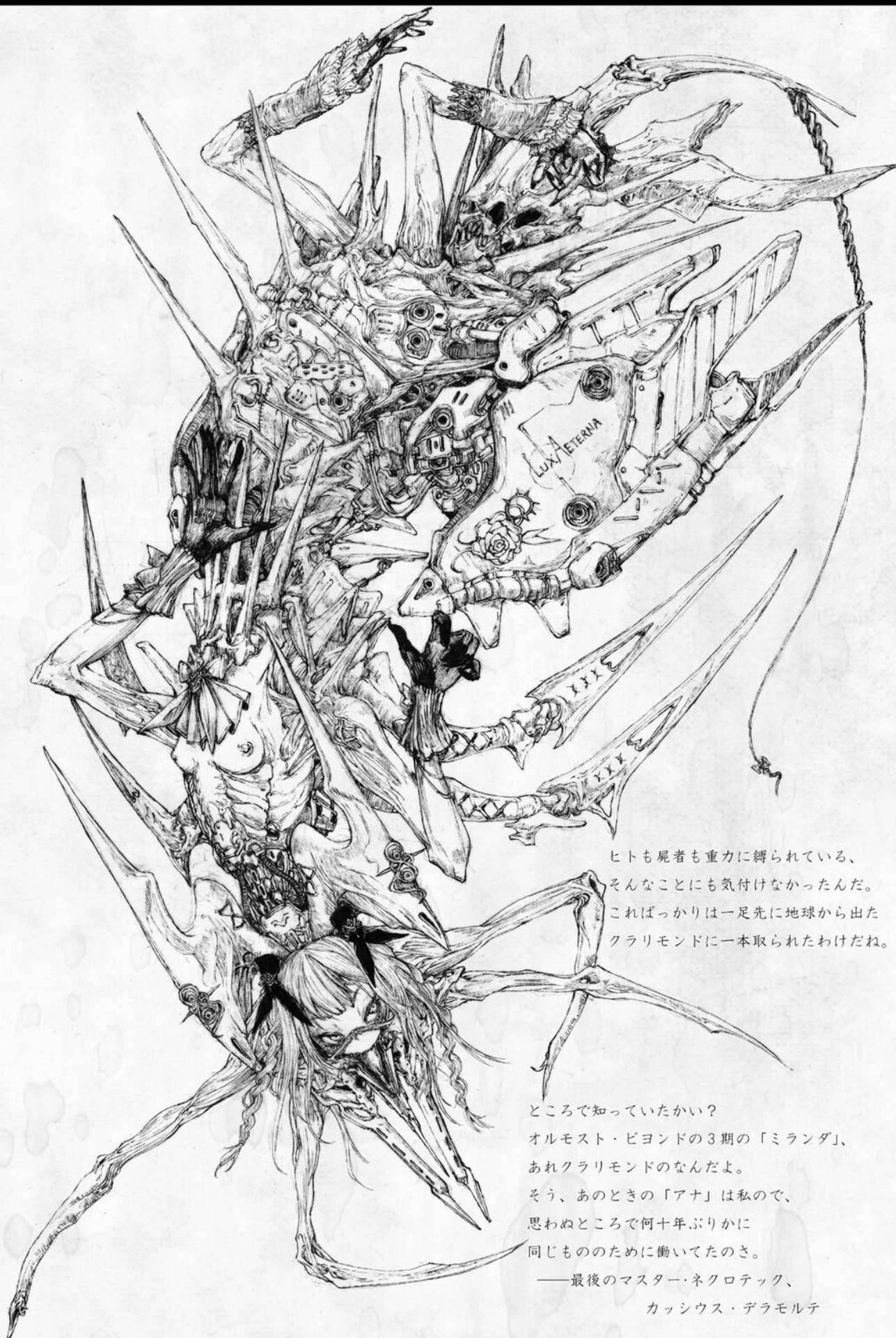


「アナ」「ミランダ」「エリベラ」
ただ名前だけがあって、その背後にあるものは
基本的にすべて秘密。
そしてこの三人の“躯体”すら何度も交換され、
外見の特長さえも一定でない。
間違いないカメラアを、もっとずっと
純粋なカタチで継承しようとしていたのだ。
——アイケイシャ・シュライエル
『星びとの環〜戦場外の記者史〜』



ネクロアイドル事件、あれには驚かされました。私にとってみれば、
ネクロテックとはまず兵器でしたからね。
カメラア・キンディの名は孫を通して耳にする程度でしたが、
軌道より外ではともかく、地球圏での人気は相当なもので。
とはいえ、デラモルテはこうなることを見越していたふしがありました。
偶像も記者も、無欠者たる資格において同じ、そうでしょうか？
——共和国研究家、ダラール大学名誉教授、ミランダ・ベリシャ

クラリモンドやブルーノートが考えていたより
もっとずっと“ラフに”多数の企業が
ネクロテック産業に参入する時代が来たんだ。
嘆く者もいるが、これは躯体ライブラリー流
みたいな例外を除いた、資料も設備も
小規模にしか用意できなかった地球外の
エンジニアたちにとっては大きな
チャンスだと思うね。
こと、太陽系が平和になるのは
まだまだ先だとは思えない
この時代にはなおさらさ。
ようやく俺たちの思想を形にする機会が
巡ってきたと思える。
このシャイェン・コリダー発の
豊かな“屍想”があるってことを
示してやるんだ。もちろん、まずは
出資者を見つけなきゃけどね。
——独立工房“六羽鳥”設立に際して。
デラモルテ研究室にしてエンジニア、
コルヴァー・アヴァンティル



ヒトも屍者も重力に縛られている、
そんなことにも気付けなかったんだ。
こればかりは一足先に地球から出た
クラリモンドに一本取られたわけだね。

ところで知っていたかい？
オルモスト・ビヨンドの3期の「ミランダ」、
あれクラリモンドのなんだよ。
そう、あのときの「アナ」は私ので、
思わぬところで何十年ぶりに
同じもののために働いてたのさ。

——最後のマスター・ネクロテック、
カッシウス・デラモルテ

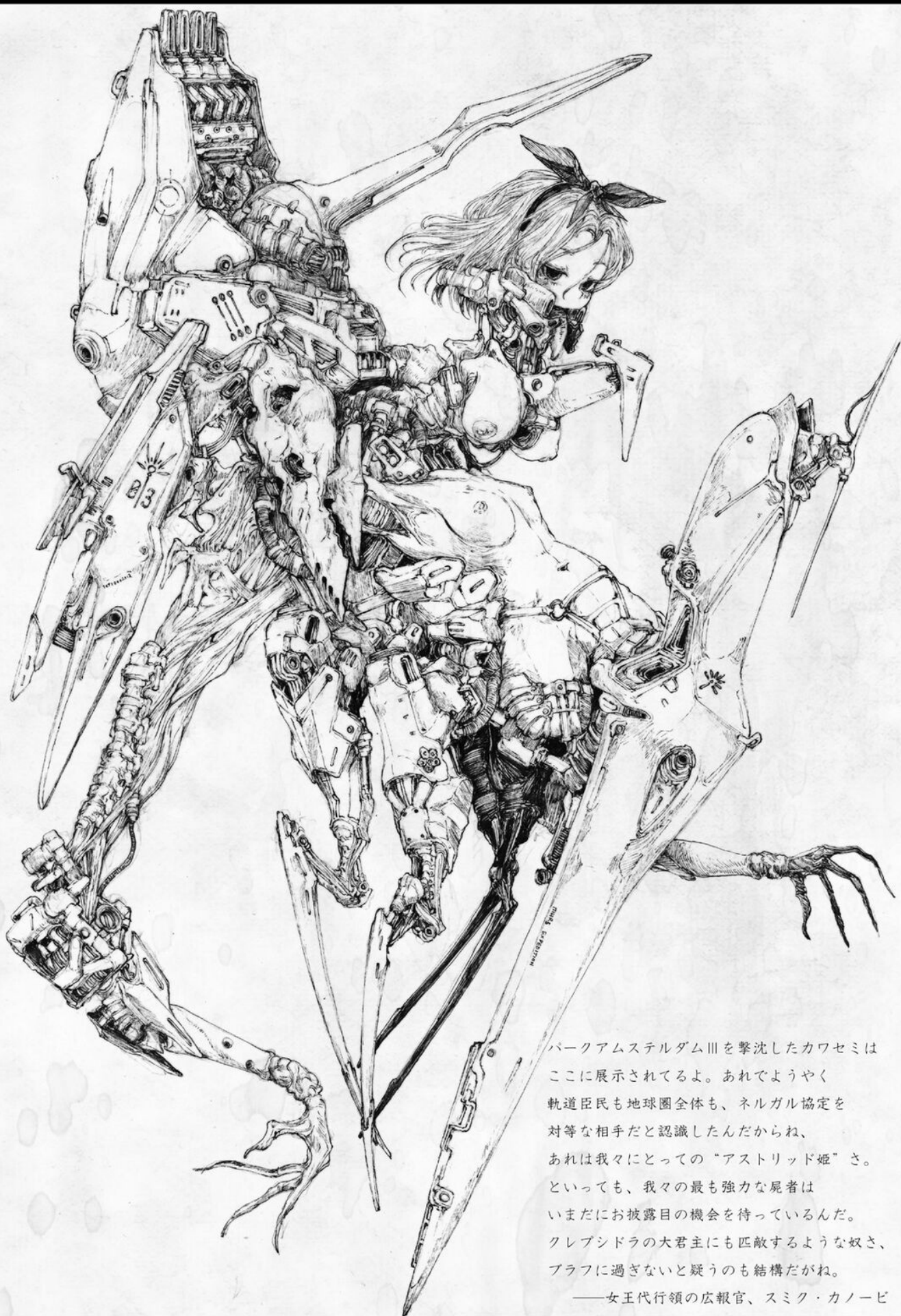






カメラ・キンディと仕掛け人が示したこと、
それをもっと先まで持っていこうと思ったの。
生者である必要がないなら屍者である必要も、
そこに境界線を引くこと自体意味がないかも。
デッド・カン・アイドルⅡを結成した一番の
動機はそれ、何より私の身体性を活かせるもの。
オルモスト・ビヨンド？あれはあれで興味深いわ。

——デッド・カン・アイドルⅡのフロントマン、
セルファセンブラ
サイエルフの“自己構成者”、イエンミ・ラジャーニ



パークアムステルダム川を撃沈したカワセミはここに展示されてるよ。あれでようやく軌道臣民も地球圏全体も、ネルガル協定を対等な相手だと認識したんだからね、あれは我々にとっての“アストリッド姫”さ。といっても、我々の最も強力な屍者はいまだにお披露目の機会を待っているんだ。クレブシドラの大君主にも匹敵するような奴さ、ブラフに過ぎないと疑うのも結構だね。

——女王代行領の広報官、スミク・カノービ

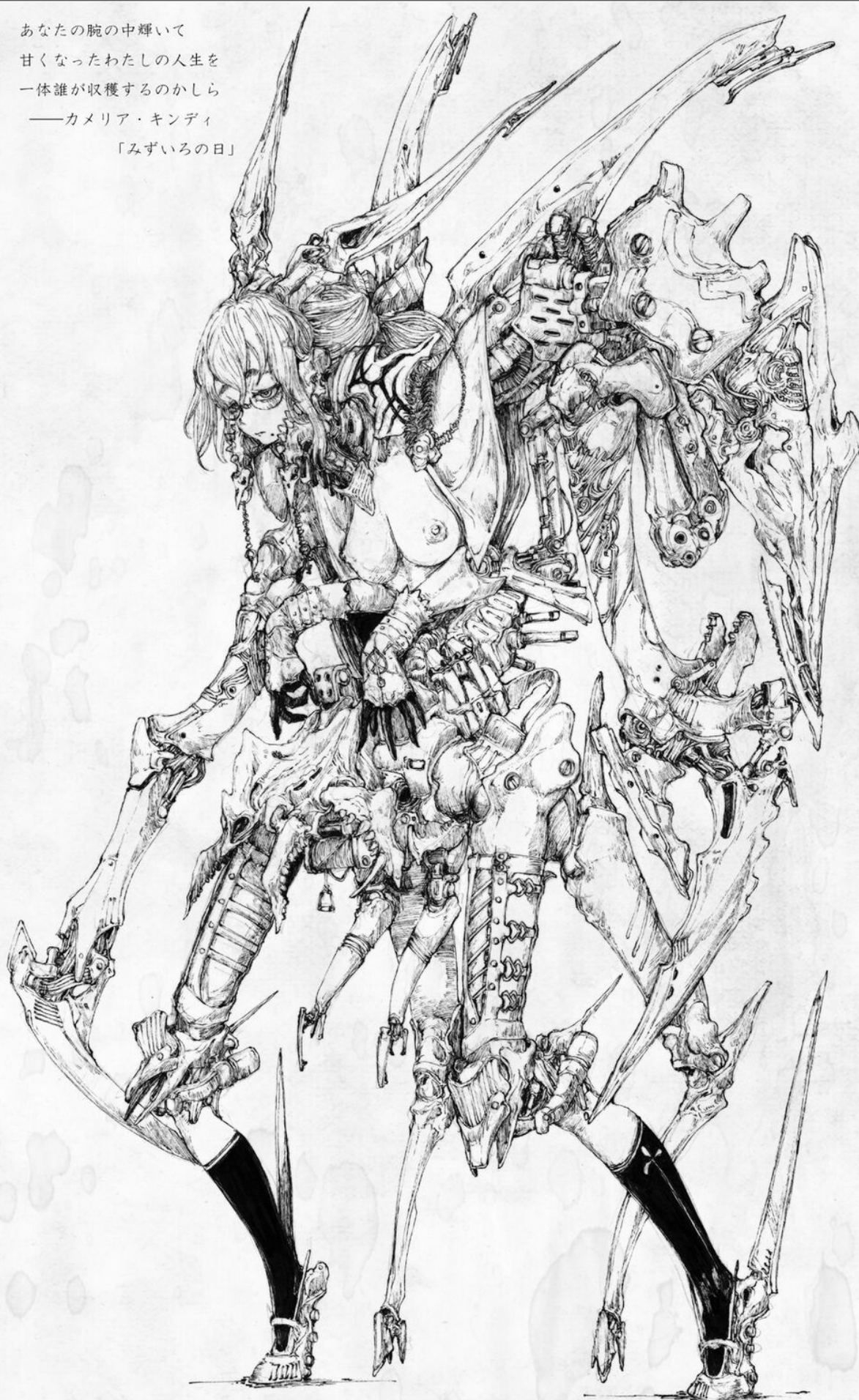


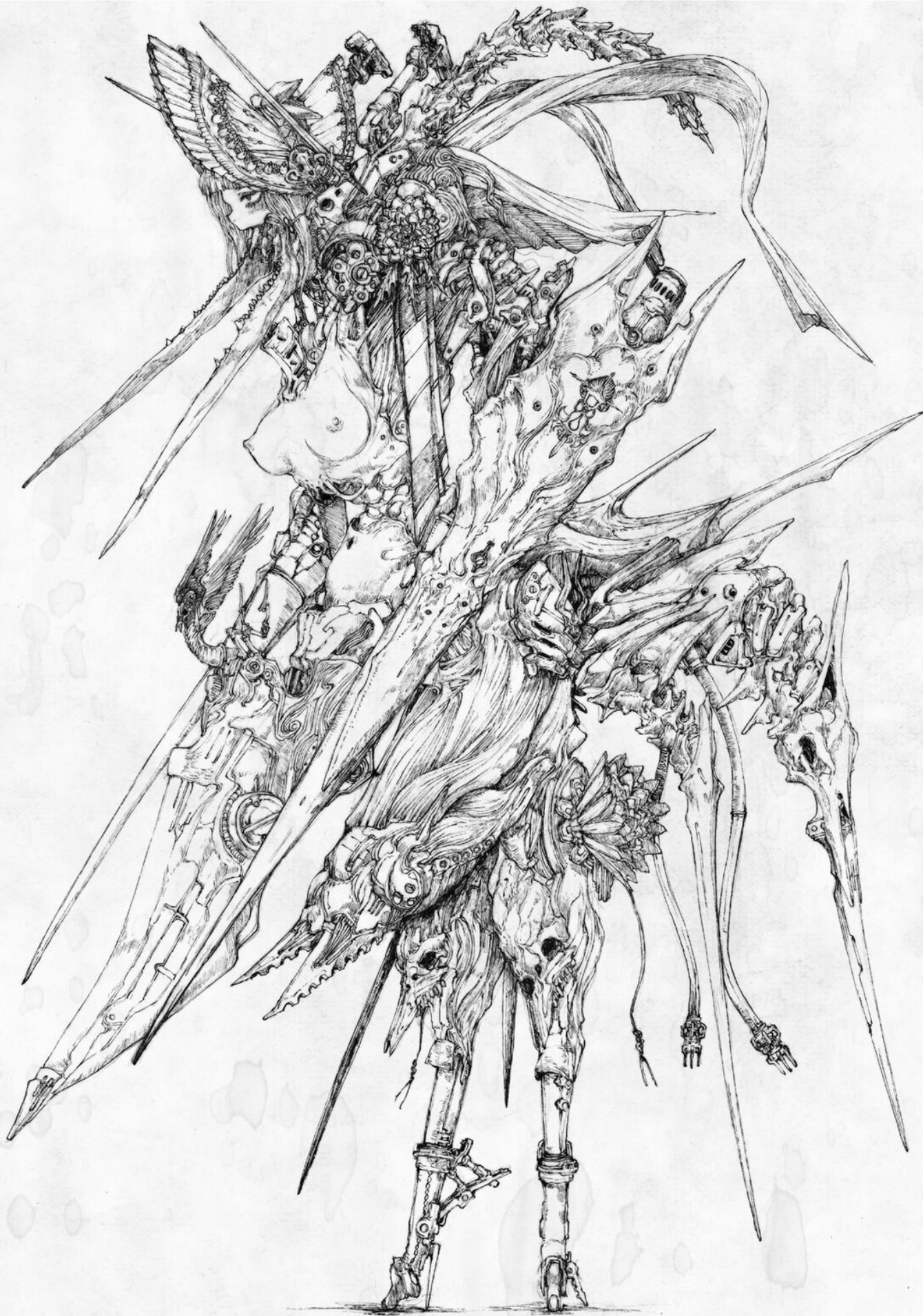
おじさんがこないだのダイモス・ラインの
艦隊戦の現場をサルベージしてきて、
「残骸は半々で前より実入りが悪い」
って言ってたの。真円のネクロテックも
だんだん良くなってきたんじゃないかしら、
女王顧問官はおくびにも出さないけど。
えへへ、でもおじさんのおかげでわたしも
一週間郊外に出ずに贅沢できたの。

——ネルガル・ゲートの屍肉拾い、

ネロディー・ヘイグ

あなたの腕の中輝いて
甘くなったわたしの人生を
一体誰が収獲するのかしら
——カメリア・キンディ
「みずいろの日」





これは僕じゃない
メカニカル
 僕は機械的じゃない
 僕はただの少年
 自殺の王を演じているだけの
 ——マリリン・マンソン『メカニカル・アニマルズ』

またお会いできたことを心より喜び申し上げますとともに、
 なんとか年一で本を出すという目標を達することが出来て
 ほっとしております。

と言いますのも、今回ばかりはいつもにも増して苦しい状況、
 それも形而上の問題ではなく純粋な生活の困難の中で
 ネクロテックに取り組むことになったからです。
 過去作アーカイヴスの電子版がそこそこ成功したりで、
 物心両面において折れずに済んだのは僥倖でした。

少女たちの屍体と向き合うこと、それは消えかけの異彩の焰、
 プロメテウスに起源を持たない灯を必死で繋ぐようなギリギリの
 行いであると再認識する次第です。

それでも原初の存在たちがくらやみから遠い出すようにして、
 少女を溶接するひとびとが続々と現れているのを見て、
 この灯は思ったよりも消えにくいんじゃないかなと密かに
 微笑んだりもしております。

眠りの壁の向こう、わたしが思う美しさは
 「わたしたち」が思う美しさとなって、世界の虚ろを満たすために
 その儚く脆い身体を投げ出し続けているのだと信じます。

豊穡なる屍の暗い輝きが、いつか万人のたましい、
Beneath The Mire
 その霊妙なる泥濘の底まで届くことを祈っております。



